

令和5年度

# 相双地域医療体験研修

令和5年8月8日(火)～10日(木)

実施報告



福島県相双保健福祉事務所



## 令和5年度相双地域医療体験研修実施要領

### 1 研修の目的

地域医療の現状や課題、復興の状況について、医療機関や被災地の視察及び地域住民との交流等を通して理解を深めてもらい、将来の地域医療の担い手の育成を図るもの。

### 2 開催日

令和5年8月8日(火)～10日(木)

### 3 対象者

福島県立医科大学医学部生12名（3年生11名、2年生1名）

### 4 集合・解散場所

福島県立医科大学 7号館付近駐車場

### 5 行程

別紙のとおり

### 5 研修内容

#### (1) 飯舘村サポートセンター「つながっぺ」

地域住民との交流を通し、帰還した住民の生活の現状や課題を知る。

#### (2) 双葉町診療所

双葉町唯一の一次医療機関としての現状や、震災前に双葉町で勤務していた医師が、再び双葉町で勤務すると決めた想いを知る。

#### (3) おだがいさま工房

避難から帰還までの状況を伺い、富岡町で生活することへの想いや、地域に戻り地域の復興のために何を行っているのかを知る。

#### (4) 富岡消防署

双葉地域の救急搬送の現状と課題や、消防機関と医療機関の連携の重要性を学ぶ。

#### (5) ふたば医療センター附属病院

被災地域における救急医療提供体制及び訪問看護の現状と課題を学ぶ。

#### (6) 東日本大震災・原子力災害伝承館

震災当時の被害状況や復興への歩みを理解することで、被災地域の現状や復興への関心を高める。

#### (7) 南相馬市立総合病院

震災直後と現在の地域医療の状況の変化について理解する。また、病院ボランティアや臨床研修医との意見交換を通し、地域の医療に携わることへの想いややりがいを知る。

## 令和5年度 地域医療体験研修 行程表

### 1 日程

8月8日(火)～ 8月10日(木)〔2泊3日〕

### 2 実施内容等

月日	時間	所要時間	研修先	主な内容	所在地
8/8(火)	8:00 ～ 8:30	0:30	福島県立医科大学	集合	福島市
	8:30 ～ 9:30	1:00	移動	○オリエンテーション	
	9:30 ～ 11:00	1:30	飯館村サポートセンター「つながっぺ」	○プログラム(軽体操)への参加を通じた地域住民との交流	飯館村
	11:00 ～ 12:00	1:00	移動		
	12:00 ～ 13:00	1:00	双葉町診療所	○医師講話・質疑応答 ○所内見学	双葉町
	13:00 ～ 13:05	0:05	移動		
	13:05 ～ 13:50	0:45	昼食		双葉町
	13:50 ～ 14:00	0:10	移動		
	14:00 ～ 16:30	2:30	おだかいさま工房	○講話(相双地域への思い) ○藍染めの体験	富岡町
	16:30 ～ 17:00	0:30	移動・チェックイン		
	17:00 ～		富岡ホテル	宿泊	富岡町
8/9(水)	8:30 ～ 8:45	0:15	富岡ホテル(打合せ)		富岡町
	8:45 ～ 8:55	0:10	移動		
	8:55 ～ 10:00	1:05	富岡消防署	○救急医療についての講話・質疑応答 ○消防署の紹介	富岡町
	10:00 ～ 10:30	0:30	移動		
	10:30 ～ 12:30	2:00	ふたば医療センター附属病院	○院長及び看護部長の講話・質疑応答 ○院内見学、患者との懇談	富岡町
	12:35 ～ 13:10	0:30	移動		
	13:10 ～ 14:10	1:00	昼食		浪江町
	14:10 ～ 14:30	0:20	移動	※道中、双葉厚生病院を車内から見学	
	14:30 ～ 16:30	2:00	東日本大震災・原子力災害伝承館	○館内見学(語り部講演15:00～ 40分)	双葉町
	16:30 ～ 17:00	0:30	移動・チェックイン		
	17:00 ～ 19:00	2:00	やすらぎの宿 双葉の杜	グループワーク(KJ法演習による意見交換)	浪江町
19:00 ～		やすらぎの宿 双葉の杜	宿泊		
8/10(木)	8:00 ～ 8:15	0:15	双葉の杜(打合せ)		浪江町
	8:15 ～ 9:00	0:45	移動		
	9:00 ～ 11:45	2:45	南相馬市立総合病院	○院長講話・質疑応答 ○病院ボランティア及び臨床研修医との懇談	南相馬市
	11:45 ～ 11:50	0:05	移動		
	11:50 ～ 12:20	0:30	昼食		南相馬市
	12:20 ～ 16:00	3:40	相双保健福祉事務所	○まとめの準備 ○発表・講評	南相馬市
	16:00 ～ 17:15	1:15	移動		
	17:15 ～ 17:25	0:10	福島県立医科大学	解散	福島市

## 研修1日目（8月8日）

### 飯舘村サポートセンター「つながっぺ」



村民の孤立防止や介護予防を担う飯舘村サポートセンター「つながっぺ」にお伺いしました。

1. 利用者が普段行っている健康体操を、利用者と共に体験しました。
2. 利用者と懇談し、普段の生活やセンターでの活動についてお話を伺いました。

#### 参加学生の声

- ✓ 飯舘村という地域でのコミュニティ形成や、住民の健康維持のためにサポートセンターがあることを学んだ。
- ✓ 私達が住民の皆さんとお話をして実際に喜んでいただいたことで、定期的集まってお話しや体操をすることの重要性が分かった。
- ✓ 健康体操が想定していたよりも体力を使って大変だった。

### 双葉町診療所





震災後に初めて双葉町内に開所された医療施設である双葉町診療所にお伺いしました。

1. 双葉町健康福祉課の志賀様より、双葉町の現況と双葉町診療所の概要について説明いただきました。
2. 震災前に双葉町で勤務していた白土医師より、双葉町診療所で勤務するまでの経緯等について講話いただきました。

#### ＼ 参加学生の声 ／

- ✓ 医師の地域に対する熱い想い、地域医療における医師の責任の大きさを感じた。
- ✓ かかりつけ医として、地域の安心に寄与していることを学んだ。
- ✓ どうしても被災地というくくりで特別視してしまいがちだが、先生の「双葉に帰りたかった」というお話から、自分たちが持つ故郷に帰りたい気持ちと同じなのだ改めて感じた。

#### おだがいさま工房



避難指示が解除された富岡町夜ノ森地区に今春帰還した、草木染めの工房「おだがいさま工房」にお伺いしました。

1. 代表の小野様より、工房の活動や富岡町への想いについてお話いただきました。
2. ハンカチの藍染め体験を行いました。

#### ＼ 参加学生の声 ／

- ✓ 仕事に情熱を持ち頑張っている方がいることが分かった。地元に対する強い愛を感じた。
- ✓ 実際に富岡町に住んでいる住民の生の声を聞くことができた。
- ✓ 町に対する大きな愛着は、障害や困難を超えることを学んだ。

## 研修2日目（8月9日）

### 富岡消防署



患者の搬送を通して双葉地域の救急医療を支える富岡消防署にお伺いしました。

1. 遠藤署長より歓迎の挨拶をいただきました。
2. 堀川救急救命士より、救急搬送の現状や震災当時の活動について講話いただきました。

#### 参加学生の声

- ✓ 東日本大震災の際に消防士の方々がどういった活動をしていたのかを学んだ。
- ✓ 現場から医療施設へつなぐ側からの話を初めて聞くことができ、新鮮だった。
- ✓ 救急医療には医者だけではなく、消防隊員という搬送のプロの尽力が必須であることを知った。
- ✓ 「こんな医師になってほしい」というお話が心に響いた。

### ふたば医療センター附属病院





双葉郡の地域医療を担うふたば医療センター附属病院にお伺いしました。

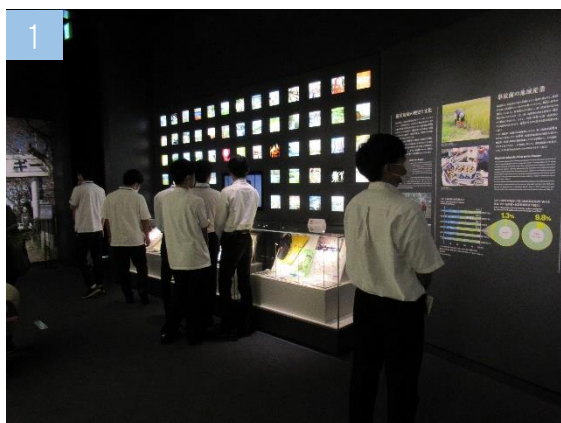
1. 谷川院長より「東日本大震災と福島原子力発電所事故被災地の医療再生に向けた取り組み」、梅宮看護部長より「ふたば医療センター附属病院の取り組み」というタイトルで講話いただきました。
2. 院内を見学し、医療機器の説明を受けました。
3. 入院患者との交流の場を設けていただきました。
4. 訪問看護師の方も交え、学生からの質問にお答えいただきました。

#### ＼ 参加学生の声 ／

- ✓ 急性期の病院でありながら、病院での治療のみならず在宅ケアも行うなど、医療を点としてではなく流れとして捉えていることを学んだ。
- ✓ 様々な施設やスタッフが協力して地域の方を支えていることが地域医療の面白さだと感じた。
- ✓ 谷川先生の講話で、地域医療に必要な能力として、幅広い知識と技術、そして患者さん等とのコミュニケーション能力が挙げられており、身につけたいと思った。
- ✓ ひとつひとつの質問にかなり丁寧に答えていただいたので、とてもためになった。
- ✓ 患者さんとの実際の対話を通して、自分に何が足りず、今後どうすればよいかを考えることができた。



## 東日本大震災・原子力災害伝承館



収集した資料や調査・研究の展示を通して、複合災害の記録や教訓、復興への歩みを国内外へ伝える東日本大震災・原子力災害伝承館にお伺いしました。

1. 発災当時やその後の避難生活を示す資料を見学しました。
2. 震災当時の状況や避難生活の苦勞について、語り部の講話をお聞きしました。

### 参加学生の声

- ✓ 震災当時、被災した方々がどのような気持ちでいたのか、現状はどうなのかを実際の体験を聞くことで学ぶことができた。
- ✓ 震災当時の詳しい記録や実物を見学し、東日本大震災や津波、原発事故が相双の人々に与えた影響がどれほど大きいかを学んだ。
- ✓ 話に聞くのと実際に目で見るのとではインパクトが違った。
- ✓ 原発についてのキャンペーンや啓発ポスターなどが展示されていて、県民にとっての原発の身近さに驚いた。

## KJ 法演習・グループワーク

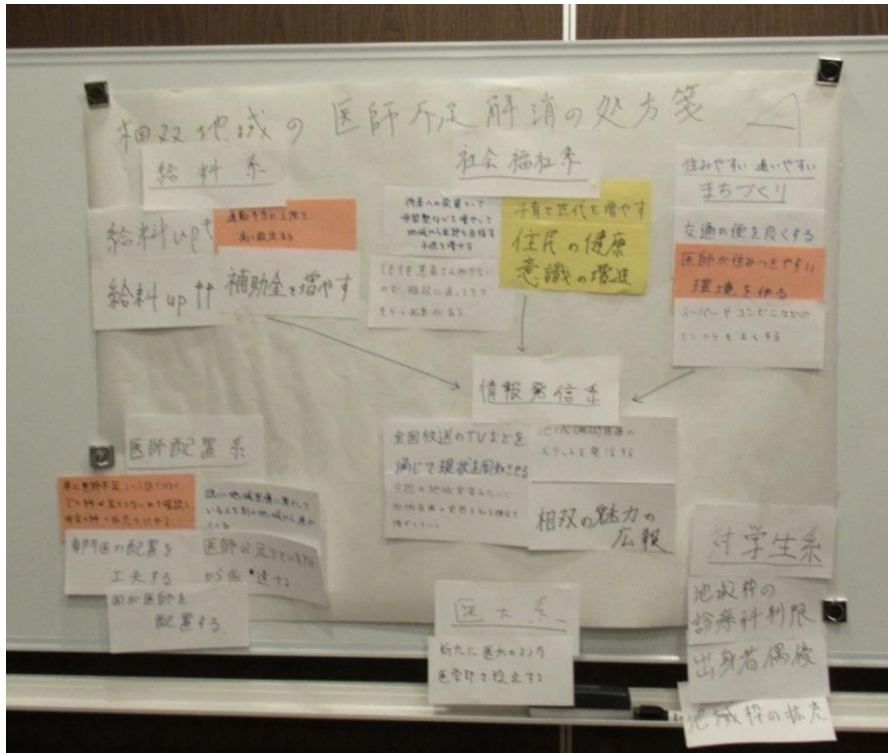


2日間の研修で学んだことを踏まえ、2グループに分かれて KJ 法\*でアイデアを出し合い、その結果を発表しました。



※KJ 法：付箋等の紙に自分の思いついたアイデアを書いていき、それをグループ化していくことで、出てきたアイデアを効率的に整理する手法

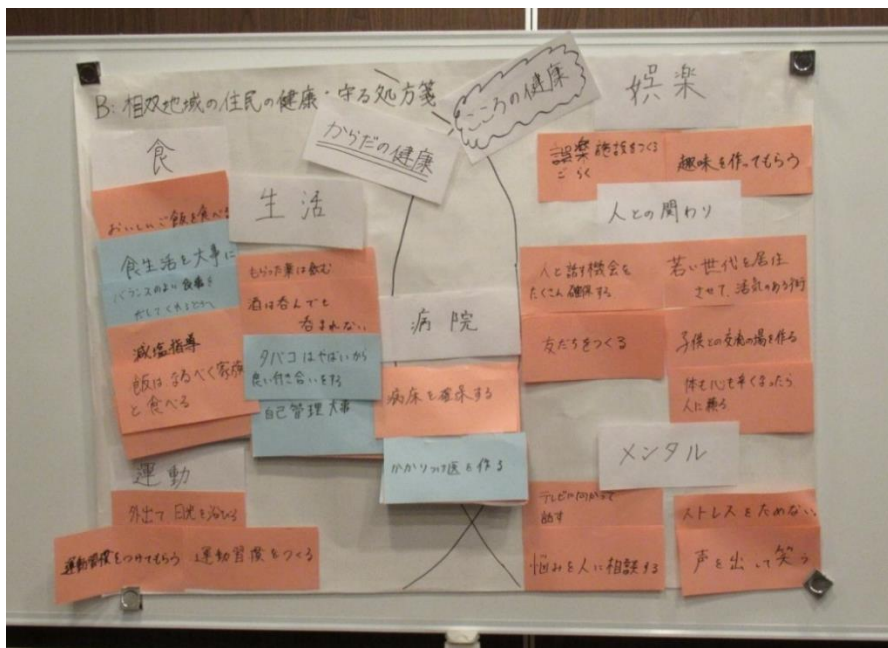
グループ A 相双地域の医師不足解消のための処方箋



挙げられたアイデア

- ・給料を上げる
- ・住民の健康意識を向上させ患者数を減らす
- ・医師が住みやすい、通いやすいまちづくり
- ・地域医療の実態や相双地域の魅力を発信する
- ・他の地域から医師を派遣する
- ・医学部の地域枠の拡充
- ・医学部を置く大学を新たに設立する

グループ B 相双地域の住民の健康を守るための処方箋



挙げられたアイデア

- 【からだの健康】
- ・バランスのよい食事
- ・運動習慣をつける
- ・過度な酒やタバコは控え、自己管理する
- 【こころの健康】
- ・趣味をつくる
- ・人と話す機会を多く確保する
- ・悩みを人に相談する
- 【共通】
- ・かかりつけ医をつくる

## 研修3日目（8月10日）

南相馬市立総合病院



相馬地域の二次救急医療機関である南相馬市立病院にお伺いしました。

1. 及川院長より相双地域の医療の現状や震災直後の病院の対応状況について講話いただきました。
2. 身体の不自由な患者さんの介助や院内案内等を行う病院ボランティアと懇談し、活動内容やボランティアとしてのやりがい、震災当時の体験等をお伺いしました。
3. 臨床研修医と懇談し、地域の病院で働く意義や、学生のうちに取り組むべきこと等をお伺いしました。

### ＼ 参加学生の声 ／

- ✓ 研修医が話しやすい方で様々なことを質問でき、前2日で得た相双地区の知識と併せて理解が深まった。
- ✓ 及川先生の講話から、震災当時の様子を細かく知ることができた。当時は国からの指示と独立して動いていたことを知り、災害時には柔軟に動かないといけないこともあったと学んだ。
- ✓ ボランティアの方々がやりがいをもって病院に協力してくださっていることを知った。ボランティアの方は70代とは思えないほどお元気で、日々のやりがいは大切だと感じた。
- ✓ やはり地域医療の魅力は、実際にそこで働いている人から話を聞いてこそ一番伝わると思う。

## 課題のまとめ・発表



「地域実習の感想」「地域医療を担う医師に求められる資質・能力とは?」「地域実習を通して考える医学部卒業までに備えるべき能力とは?」について、プレゼン資料にまとめて各自が発表し、質疑応答を行いました。

### 学生から発表された感想・意見

#### ○「地域実習の感想」

- ・病院だけではなく地域の様々な施設を訪問することで、地域が抱える医療の問題を異なる角度から検討することができた。
- ・一度居住者がゼロとなった地域にも人が戻り始め、医療の整備も進み、これからも復興し続けていくという力強さを感じた。

#### ○「地域医療を担う医師に求められる資質・能力とは?」

- ・専門分野にとどまらず、幅広い分野の疾患を診断できる知識と技術
- ・患者を取り巻く環境を推察し、把握する能力

#### ○「地域実習を通して考える医学部卒業までに備えるべき能力とは?」

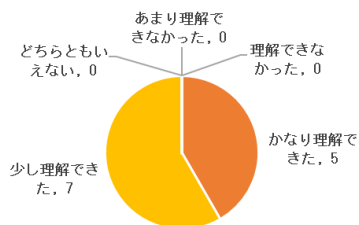
- ・患者と良好な信頼関係を築き、患者の苦痛や痛みを適切に把握・理解できるようなコミュニケーション能力
- ・医師として信頼されるような人間性

### 課題のまとめ・発表を通して

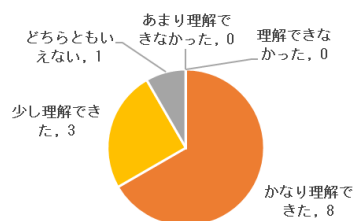
- ✓ 同じ実習を通して、人によって様々な視点や感じ方があることを学んだ。
- ✓ コミュニケーション能力を身につけることが大切であるという皆の共通認識があった。
- ✓ 自分たちがどれほどまでに期待されているかを痛感した。

参加学生のアンケート結果（単位：人）

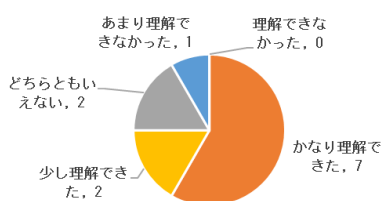
(1) 飯館村サポートセンター「つながっぺ」での体験と講話を通して、帰還した住民の生活状況やそれに対する活動について、理解することができましたか。



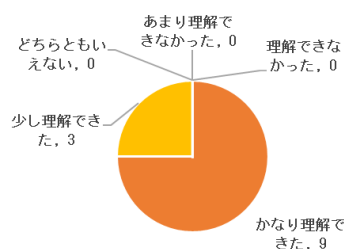
(2) 双葉町診療所の見学と講話を通して、被災地における一次医療の現状や課題、勤務する医師の考え等について、理解することができましたか。



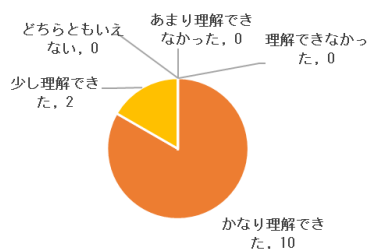
(3) おだがいさま工房での体験と講話を通して、被災から帰還までの経緯や地域への想いについて、理解することができましたか。



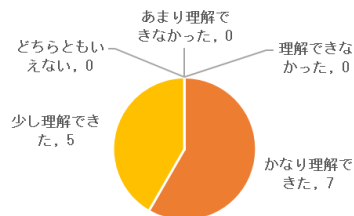
(4) 富岡消防署の見学と講話を通して、双葉地域における救急医療の現状と課題、医師への期待について、理解することができましたか。



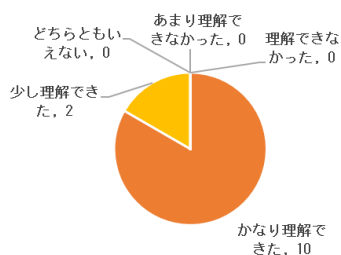
(5) ふたば医療センター附属病院の講話等を通して、地域医療を支えるための役割やその取組状況、勤務する医療従事者の考え等について、理解することができましたか。



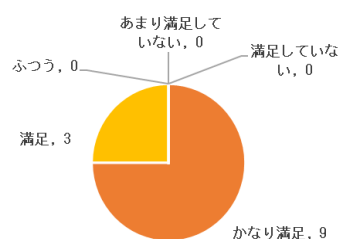
(6) 東日本大震災・原子力災害伝承館の見学を通して、震災当時の被害状況や復興に向けた取組について、理解することができましたか。



(7) 南相馬市立総合病院の講話と意見交換を通して、地域医療の現状や課題、相双地域の医療に携わることのやりがい等について、理解することができましたか。

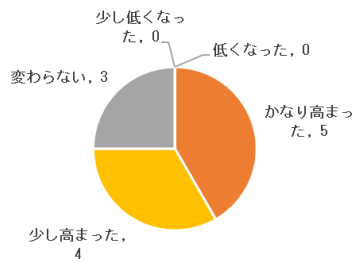


(8) 研修全体を通じての満足度はどうでしたか。

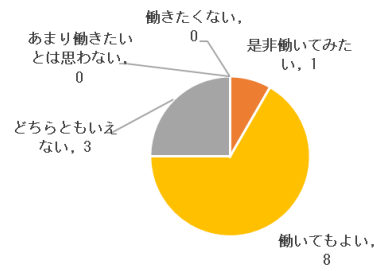




(9) 将来、医療過疎地域で医療に関わりたいという意識は以前より高まりましたか。



(10) 今回訪れた相双地域で、将来、機会があれば働いてみたいと思いますか。



### (11) 今回の実習で得た成果や学んだこと・感想等

- ・地域により抱えている問題は異なり、それぞれを理解したうえでの医療が大事であると痛感した。
- ・相双地域について、実習を通してでしか得られない知識や経験をたくさん得られた。実際に現地で働く医師や地元の方々と話げできたこともよかった。
- ・自分と年齢や経験が全く違う人と会話することがとても難しいと痛感しました。知識を覚えることに必死になりがちな医学部3年生に、貴重な経験をさせてもらえて良かったです。
- ・伝承館に行けることが魅力で相双コースを選びましたが、それ以上に多くのことを学ぶことができました。
- ・日常では自分が触れないような、被災地域の医療の現状や文化を目の当たりにすることで、「自分がもしこのような地域で医師として働くならどうするか」といった、いつもなら考えないことを考える機会になりました。

### 【～次年度の研修に向けて～】

今回の研修は、医師や看護師をはじめ、地域住民・救急救命士・臨床研修医・病院ボランティアといった幅広い立場の方々と懇談する機会を設けることで、様々な視点から医療を主とした相双地域の現状を感じとれる内容となった。

学生からの評価としては、医療施設での研修の理解度・満足度が高かった。これは、実際に相双地域で働く医療従事者や入院患者・ボランティア等との懇談や、医師・看護師が実際に入院患者と接する姿を間近に見た体験を通して、相双地域で医師として働くイメージを想像できたことが要因と考えられる。インフラがまだ整っていないことや人手不足への懸念はありつつも、医師に対する地域の期待の高さや、スタッフ一丸となって住民に寄り添う地域医療への働きがいを感じられたという意見が多く挙げられた。

これらをふまえ、次年度の研修では、医療施設での研修を軸としつつ、引き続き医療従事者のほか、地域住民や社会福祉施設の職員等の幅広い立場の方と話をする機会を設け、相双地域の医療・復興の現状や関係者の相双地域に対する想いが伝わる研修内容としたい。